



平成24年8月16日PM 現地調査
【国の専門家派遣】
国土技術政策総合研究所 研究官1名
土木研究所 上級研究員1名、研究員1名

- 【崩壊形態調査概要】
- ・幅約16m～20m、斜面長約100mあるうち上部50m程度に渡って崩壊
 - ・崩壊は最深部で約1m程度の浅い崩壊
 - ・崩壊土砂は主に砂・砂礫
 - ・浸食深は1m～2m程度
 - ・河床勾配は7°～16°程度
 - ・下流部において最大礫径20cm程度

- 【予想される危険性】
- ・崩壊面の再浸食や、溪岸で削り残った土砂の再流出の可能性はある
 - ・土砂が流出した場合は、大規模な土石流ではなく、今回と同じような細粒分の流出が考えられる

- 【その後の対応】
- ・応急対応として、谷出口に大型土のう積による谷止めを設置(8/17～21)
 - ・恒久的な対応として林野庁補助治山事業により不透過型の治山堰堤を設置中
 - ・土砂災害警戒情報発令時の避難の徹底と巡視
 - ・土石流センサー・雨量計・サイレンの設置

